

目的 色彩の知覚と共に生ずる色彩感情に連想, 象徴がある。

パーソナル・カラーは, その人の人格を連想し, 象徴する色彩であり; 服装などの特定の分野において, 実際面への利用が可能である。

パーソナル・カラーを意識しはじめるのは, 女子においては青年前期頃であると, 第1報で明らかにした。第2報では, 嗜好色と対応させ, 色の三属性による総合的な解析をした。

方法 被験者は東京家政学院中学生が, 同高校を卒業するまでの70名(13~18才)のものであり, 調査時期は'67~'72年の毎年11月に実施した。

試料は標準色票150色を用い, 質問紙法によりパーソナル・カラーと嗜好色とを選ばせた。色彩の観察はJIS Z 8723に従った。

色彩の分類はJIS Z 8721と8102に準じた。

結果 パーソナル・カラーと嗜好色との相関は, 各年令共に0.9以上で極めて大である。これは嗜好色が潜在的な要因になることを意味する。

色相では青年前期の13~15才の頃は, 両方共Bであるが, パーソナル・カラーは16~17W, 18才Yで代表される。嗜好色は16才W, 17~18才Yとなる。

明度は13~14才, 15~16才に高明度に移動する。16~18才では中明度から高明度に, また反対の傾向もみられる。彩度も高い方に移動するが16~18才の頃に無彩色になったものは定着する傾向が強い。